

ジュニアへのゴルフ普及に関する研究 ―ゴルフの参加動機から―

A study on promotion of golf for junior age :From a view point of motivation

1K05B123

指導教員

主査 作野誠一先生

関根 拓也

副査 倉石平先生

【序論】

現在、ゴルフの競技人口はバブル経済崩壊後減少する一方であり、それが続いている。特に 10 代については、ただでさえ他の世代に比べ圧倒的に少ない上に、少子高齢化の影響も相まってか人数を減らしている。今後はさらにこの現象が顕著になってくると思われる。このような状況は、今後のゴルフ界全体にとって危機的なものである。なぜこれだけ 10 代のゴルファーが少ないのか、本研究ではジュニアゴルファーを取り巻く環境を調査すると同時に、ゴルフへの参加動機を明らかにし、それをもとにジュニアへのゴルフ普及の手立てとすることを目的とする。

【研究方法】

1. ジュニアゴルフを取り巻く環境の把握

ジュニアゴルファーを支援する組織として「日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)」が設立され、ゴルフのゲームの普及と、ゲームを通しての人間教育、社会的技能の学習や親子の交流に重点を置いて活動を行っている。しかし、日本は他の国々に比べまだまだジュニアゴルファーの環境は整っておらず改善していかなければならない。

2. 参加動機について

スポーツへの参加動機には複数の因子が存在し、それらの動機が複雑に組み合わさっている。特に「健康・体力」、「親和」に関わる動機が強く、多くのスポーツ参加者がスポーツを健康づくりや体力の向上、あるいは友達づくりの手段として位置付けている。一般的傾向としては、仲間とゴル

フを楽しんだり、生涯スポーツとして健康や体力を高めたり、ゴルフの技能向上を目指したり、ゴルフの爽快さを求めてラウンドしていることが言える。しかし、この先行研究については成年男子アマチュアゴルファーが対象となっていたため、ジュニアゴルファーの参加動機がこれと全く同じ結果になるとは限らないと考えられる。

3. 調査方法

本研究では小学生から大学生までのアマチュアゴルファー189 名を調査対象とし、「健康・体力動機」、「親和動機」、「技能・能力向上動機」、「競争・有能さ動機」、「生涯スポーツ動機」、「社会的承認動機」、「享楽・爽快動機」、「実践的欲求動機」の8つに対して、それぞれの内容を反映すると思われる項目を作成し、質問紙調査を行った。

【結果と考察】

「親和」動機、「技能・能力向上」動機、「競争・有能さ」動機、「生涯スポーツ」動機、「享楽・爽快」動機、「実践的欲求」動機の参加動機得点が高く、全体的傾向としては技術や能力を向上させ、今後も趣味として続けていきたいという意志が非常に強いと考えられる。また、体力づくりや他人に認めてもらうといった手段的なものとして捉えるのではなく、ゴルフ自体を仲間とずっと楽しみたいという欲求が強いと考えられる。そして、直接的きっかけや学校種別に参加動機を比較したところ、ゴルフへの参加には、親の影響や自ら興味を持たせることが重要だと考えられる。

【まとめと提言】

石川遼選手など多くの若手プロゴルファーが注目を集めている今、ジュニアへのゴルフ普及のチャンスである。その手段としてまず、体育授業への導入が考えられる。小さい頃にゴルフを教えることで、偏見を払拭し生涯スポーツ推進にも大いに役立つと考えられる。また、その基礎プログラムとして、ファーストティープログラムやジュニアステップアッププログラムなどがある。これらのプログラ

ムはまだまだ始まったばかりであり、今後改善の余地がある。また、ゴルフの導入の手段としてスナッグゴルフやグラウンドゴルフが挙げられる。これらはすでに地域のスポーツクラブなどで導入されており、今後も普及させていくべきである。また、ジュニア用のゴルフギアの開発や、練習場やゴルフコースへのジュニア育成の認識など、ジュニアゴルファーを受け入れる環境の改善も重要となるであろう。